



みどりの風

平成26年9月30日発行
校報 第512号
(みどりの風 第55号)
練馬区立関町北小学校

開校以来の歴史の重みを感じながら

校長 大野 泰弘

私の手元に、平成21年11月14日の開校50周年記念行事の折りに発行された「開校50周年記念誌 みどりの風」があります。

その中の記事を読ませていただきますと、本校と地元の関町北4・5丁目町会や小関町会の皆様、そして、保護者の皆様との結び付きの強さ、深さが伝わってきますし、また、歴代の校長先生方の思いを感じ取ることもできます。

例えば、「昭和46年4月6日長男が入学、今年で38年になります。当時はプレコン校舎でしたが、校庭は広々と見晴らしが良く、自然の環境の中でのびのびと学び遊べる雰囲気印象に残っています。」(開校50周年実行委員長 太田 千枝子 様)、「関北小の子どもたちと接し、いつも感心することは、どの子どももしっかり挨拶できることです。今年のPTAスローガン『笑顔であいさつ 広がる輪』は、そんな子どもたちに続け！という思いを込めました。」(平成21年度PTA会長 岩永 雅子 様)というお言葉が記されています。また、歴代校長のごあいさつの中には「これから先、学校のシンボルのような大王松は背丈がどれくらい大きくなるか」(第6代校長 竹野 栄 先生)、「赴任当時、すでにランチルームがあり、給食委員会の活躍により、学校給食優良校に選ばれた」(第7代校長 熊谷 芳子 先生)、「開校30周年当時の資料や写真を改めて見て、懐かしさと月日の早さに思わず瞑目沈思した」(第9代校長 永井 靖恵 先生)、「関北小でお世話になっていたころは、学校周辺の農地、空き地が宅地化され子どもたちの数が急激に増え始めた時だった」(第11代校長 鶴殿 輝夫 先生)、「関北小での4年間は、長い教職生活の中でも、特に印象深い期間であり、心に残る多くの思い出がある」(第12代校長 平山 勇 先生)、「児童数が大変多く、900名を超えて区内で最多の時があった。増設校舎を生かし、図書館の整備・活用や多目的活動室に使用するなど、国語の研究につなげることもできた」(第13代校長 村上 公康 先生)とあり、そして、開校50周年のときの第14代校長 井上 廣美 先生の「先祖より受け継いできた大切な土地を校地として提供して下さった地主さんや、立派な校門をつくらうとご協力いただいた石屋さんなど、子どもたちの幸せと我が学校の発展を願って汗を流して下さった多くの皆様がいたことを子どもたちに伝え、感謝の気持ちをもち、学校を愛する心を育てたい」という言葉につながります。

それぞれのお言葉には、その時代の本校に学ぶ子どもたちによりよい教育を提供しようと苦心されたお気持ちだけでなく、学校・家庭・地域の絆を周年行事を通して、さらに深め、発展させていってほしいという願いなども込められていると思います。

開校50周年記念誌は、学校の教員だけでなく、PTA 広報委員会の皆様方も当時の子どもたち744名の「一人ひとこと」の編集にかかわられたとあります。今の6年生の子どもたちも、「おおきくなったら」というタイトルで、1年生としての夢を語っています。一冊の記念誌を拝見するだけでも、その底辺に流れる学校・家庭・地域社会の相互信頼の深さが感じられますが、それを継続し、発展させて、将来につなげていくことが、今の教職員や保護者の皆様に願われていることではないでしょうか。

さて、本校では、これまで一の位が「5」の年度の周年行事は行ってきていないということでした。それでは、50周年と60周年の間に在籍している子どもたちの中に、周年行事を経験することなく卒業していくケースが生まれてしまいます。そこで、この開校55周年を記念して、子どもたち自身が「自分と学校、自分と地域、学校と地域」等々に思いをよせ、地域の一員として、また、関北小の一員としての自覚を高めてもらいたいと考えて、代表委員会の子どもたちが中心となって、ささやかではありますが、お祝いの記念集会を10月15日に実施することにいたしました。すでに開校55周年記念の航空写真と全校児童集合写真は撮影しました(ご購入の申込締切は10月2日です)が、この人文字の図柄も子どもたちが考え、選び、創られたものです。次の開校60周年の記念行事では、今の1年生が活動の中心になります。開校以来55周年という歴史の重みを感じながら、これまでの多くの方々築き上げてこられた本校のよき伝統と校風を守り続けると共に、そして、21世紀を生き抜いていかなければならない子どもたちに必要な資質・能力を育むことができるよう、周年の記念集会を契機として、一層の教育活動の充実を図ってまいりたいと考えています。